４．既存共通乗車券の道南・東北相互活用の可能性検討

４－１　既存共通乗車券の整理

４－１－１　既存乗車券の概要

（１）各交通手段の連携状況

北海道と東北間を移動する交通手段としては、「新幹線・鉄道」「航空機」「フェリー」となっており、幹線的な位置付けになると考えられる。

これらの幹線的な交通手段までの支線の役割を果たす交通手段として、「レンタカー」、「高速バス」が考えられる。

現在、これらの交通手段がセットとなった企画キップや旅行商品等による連携状況は、下記のとおりと考えられる。

幹線交通手段間の連携では、例えば ANA セールス株式会社が往路を秋田・大舘能代・青森空港着で復路を函館空港発の航空券でレンタカーと青函のフェリー、宿泊をセットにした商品を販売しており、多様な乗り物・経路を楽しめる商品となっている。

一方、鉄道や航空機、フェリー等がセットになった商品、企画キップは販売されていないものと考えられる。

また、支線交通手段との連携では、レンタカーと新幹線・鉄道や航空機とセットになったお得な商品の販売が確認できた。フェリーについても高速バスと連携したお得な商品を確認することができた。

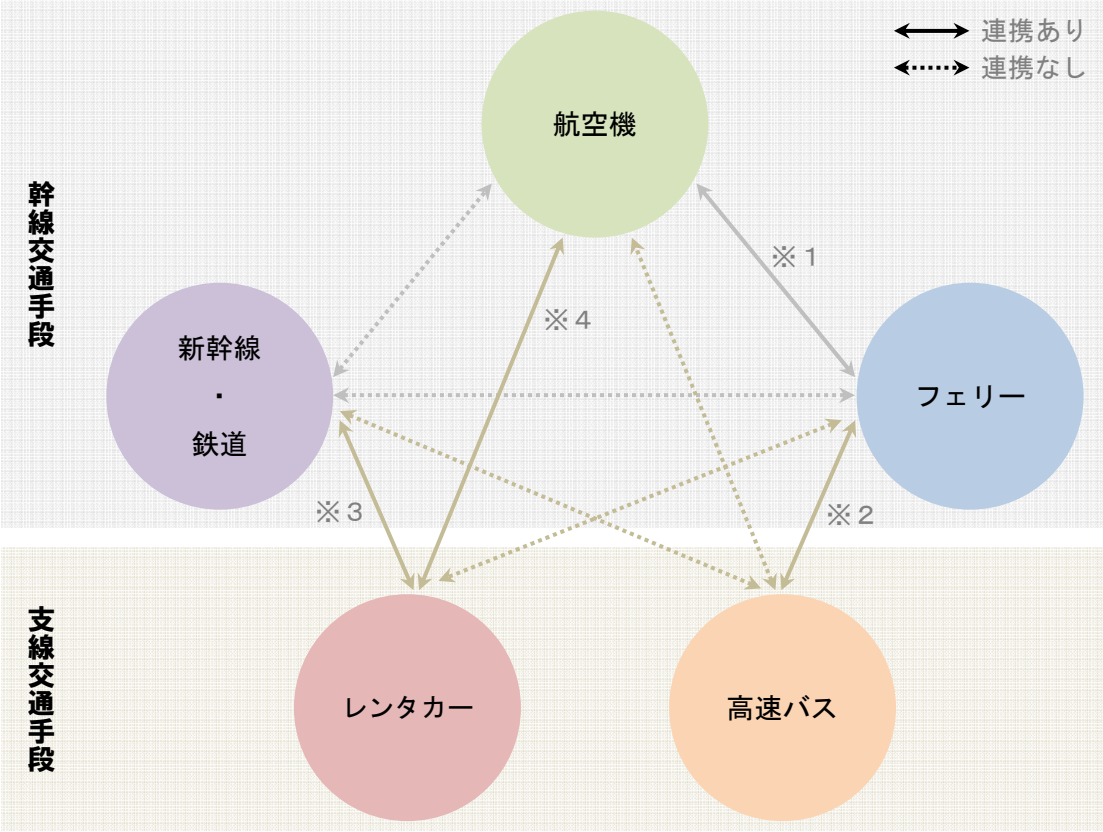

図　北海道と東北の移動手段における連携状況

【連携例１：航空機とフェリー、レンタカーの連携】

出典：https://www.ana.co.jp/domtour/area/tohoku/web_judan/

【連携例２：フェリーと高速バスの連携】

出典：http://www.tsugarukaikyo.co.jp/plan/morioka-hakodate_ticket/

【連携例３：新幹線・電車とレンタカーの連携】

出典：http://www.jreast.co.jp/torenta/outline/index.html

【連携例４：航空機とレンタカーの連携】

出典：https://www.ana.co.jp/domtour/hotel/car_top/

（２）各交通手段におけるエリアフリー乗車券の概要

現在、北海道と東北の鉄道間相互の駅でフリーに乗降できる乗車券は、下記２種類となっている。

なお、JR 東日本が発売している「札幌フリー乗車券」は、東北（仙台以北）発で東北内の駅で乗降はできないが､JR 北海道のニセコ駅から札幌駅までの駅がフリーで乗降できる乗車券であり、このように、行き先でのフリー乗降ができる乗車券等は、JR 東日本、JR 北海道ともに発売されている。

また、JR 北海道が発売している「北東北フリーきっぷ」はオプションとして、別途追加料金を支払うことで、路線限定だがバスをフリーに乗降できる企画キップを発売している。

表　フリータイプ乗車券のサービス概要

乗車券	北海道＆東日本パス	三連休乗車券
発行元	JR 東日本、JR 北海道	JR 東日本
利用可能エリア	ＪＲ北海道線、ＪＲ東日本線、 青い森鉄道線、ＩＧＲいわて銀河鉄道線、 北越急行線、富士急行線	JR 東日本線、 JR 北海道線の「中小国～函館」間、 青い森鉄道線、ＩＧＲいわて銀河鉄道線、 三陸鉄道線、北越急行線、富士急行線、 伊豆急行線、 えちごトキめき鉄道「直江津～新井」間
乗車可能タイプ	普通列車（快速含む）、普通車自由席、 ＢＲＴ ※急行列車は、料金券を別に購入すれば利用できる	普通列車（快速含む）、普通車自由席、 ＢＲＴ ※新幹線等は、特急券等を別に購入すれば利用できる
有効期間	７日間	３日間
料金	≪大人≫10,290 円 ≪子供≫5,140 円	≪大人≫13,390 円 ≪子供≫4,110 円
利用期間	≪春≫ 平成 27 年 3 月 14 日～ 平成 27 年 4 月 23 日 ≪夏≫ 平成 27 年 7 月 1 日～ 平成 27 年 9 月 30 日 ≪冬≫ 平成 27 年 12 月 10 日～ 平成 28 年 1 月 10 日	①平成 27 年 7 月 18 日～20 日 ②平成 27 年 9 月 19 日～21 日 ③平成 27 年 9 月 20 日～22 日 ④平成 27 年 9 月 21 日～23 日 ⑤平成 27 年 10 月 10 日～12 日 ⑥平成 27 年 11 月 21 日～23 日 ⑦平成 28 年 1 月 9 日～11 日

【参考：北海道＆東日本パスの利用エリア】

※チラシは消費税が５％時のものであるため、前ページの値段と異なる

４－２　広域周遊を促進するための交通機関同士の連携課題

現在、北海道と東北の鉄道については、フリー乗車券が発売されるなど、広域周遊促進を支える事業が鉄道事業者で行われている。

ただし、北海道と東北間は距離が長いため、交通手段によっては、非常に長い移動時間を伴う必要がある。北海道と東北間は多様な乗り物・経路があるため、往路・復路で手段、経路を変えるなど「移動」を旅の楽しみにすることも可能であると考えられる。そのため、北海道新幹線開業後については、多様な交通手段の連携が課題であり、事業者間の取組が期待される。

また、幹線交通手段と支線交通手段の連携については、フェリーと高速バス、航空機、新幹線とレンタカーなど既に多様な連携が図られているところであり、今後は、フェリーとレンタカー等の連携が期待される。